

ザンビアに暮らしてみて

JICA シニア海外ボランティア
ザンビア開発庁ビジネスアドバイザー
澤村 康史

「ザンビア起業家の情熱と支援活動（1）」

～ファッションデザイナー～

ザンビアは自然豊かな国です。西側に位置するリビングストーンでは、ザンベジ川のゆったりとした流れが世界遺産のビクトリアの滝へ向かって荒々しさをむき出しにします。100メートルの落差、幅広の壮大さは世界3大瀑布の一つと言われる所以です。昼間は滝しぶきの中に2重、3重の虹を見ることができます。夕暮れ時にはザンベジ川に沈む夕陽を映し出し、昼間の雑踏と疲れを癒してくれます。ザンビアに来て良かったなあと思う瞬間です。

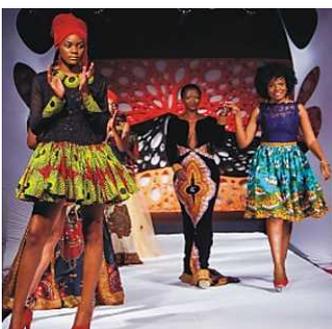


私は JICA シニア海外ボランティアとして首都ルサカにあるザンビア開発庁へ経営管理の職種で派遣されています。ビジネスアドバイザーとして現地の中小企業や起業家への巡回経営相談やスタートアップ支援をしており、約1年半で約300社と面談し、25件のプロジェクトを推進してきました。その中から3回にわたってザンビア起業家との活動状況をご紹介させていただこうと思います。

第一回目は、ザンビアのファッションデザインに挑戦する起業家です。

1. ザンビアのファッション界

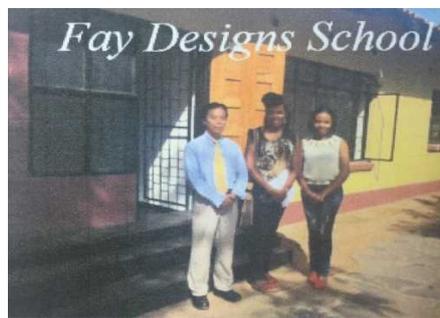
ザンビアのファッションは色彩の豊かさと斬新なデザインが知られており、毎年10月ころに開催されるファッション・ショーでは、有名デザイナーが最新ファッションを競います。



2. フェイ・デザインの事業展開

その中の一人から、ファッション・デザインスクールの開校の支援依頼を受けました。“自分は10年前に自宅のリビングルームで起業し、デザインやパターン、裁縫などを独学しながら苦労して今に至った。その間、ロンドンやパリでショーを開催するまでになり、ザンビアでもトップクラスのデザイナーと言われるようになった。この経験やスキルを若いデザイナーに伝承できるようなデザイナー養成校を私費で設立したい”とのことでした。

それ以来、プロジェクト計画書の作成、学校の場所選定、授業プログラム、スケジュール、生徒募集、認定などの課題を克服しつつ、6か月後の2016年1月に開校しました。2名の基本デザインクラスの生徒から始めたスクールも半年で10名となり、今後は中級、上級クラスなどの増設を計画中です。



ザンビアの起業家も情熱、責任感、リーダーシップは先進国と同じです。彼ら起業家の中には、アフリカンデザインの日本への紹介や輸出、日本企業からの先端技術移転や品質改善技術などの投資に期待を寄せています。

3. ザンビアのビジネス環境

ザンビアは、日本の約2倍のフラットな土地を有し、共通語が英語で政治的にも比較的安定しています。アフリカの中央部に位置しており、周辺諸国を合わせると約4億人の商圈を抱えており、今後アフリカ進出をご検討されている日本企業にとっては、比較的ビジネスのスタートアップをしやすい国ではないかと考えています。

